（別紙1）

従業者向け　放課後等デイサービス評価表

公表：令和　8年　10月　15日

放課後等デイサービス　優

討議年月日：令和8年　9月　25日

○ 本評価表は、放課後等デイサービスに従事する従業者の方に、事業所の自己評価していただくものです。
「はい」又は「いいえ」のどちらかに○を記入するとともに、従業者の視点で、「事業所が工夫していると思う点」や「改善が必要だと思われる点」などについて記入してください。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動内容により机を移動したりし、必要なスペース確保に努めている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		送迎時間の兼ね合いで一時的に人員が不足する時間も発生するが適切な配置を確保するよう心掛けている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		現在の利用児童の特性に照らし、現状の環境で安全に過ごせる状態を確保している。バリアフリー対応や情報伝達の工夫が必要となる児童がりようする場合には、その都度、必要な範囲で環境整備を検討し、安心して過ごせるよう配慮していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		生活空間は常に清潔を保ち、子ども達が心地よく過ごせるよう環境整備を行っている。 また、活動内容に応じて机や備品の配置を調整し、子ども達が取り組みやすい空間づくりに努めている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要に応じて、子どもが落ち着いて過ごせるよう、事業所内の一角や別スペースを個別の活動場所として確保できる体制を整えている。 状況に応じて個別対応ができるよう柔軟に環境を調整している。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		支援前後の打ち合わせや日々の記録共有を通じて、職員が意見を出しやすい環境を整えている。 必要に応じて活動内容や支援方法の見直しを行い、職員全体でPDCAサイクルを回すよう努めている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		○	保護者アンケートは現時点では未実施であるが、今後は保護者の意向を把握するための評価表を取り入れ 得られた意見を業務改善に活かしていく予定である。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		支援前後の打ち合わせや日々の記録共有を通じて職員の意見や気づきを把握している。 得られた意見は活動内容の見直しや支援方法の改善に活かし、業務の質向上につなげている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現状では第三者による外部評価の実施が難しい状況であるが、 今後は外部機関による評価を受ける機会を設け、業務改善に活かしていくことを検討している。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		職員が継続的に学べるよう、ジョブメドレーアカデミーのオンライン研修を受講できる環境を整えている。 事業所内でも必要に応じて研修や情報共有の場を設け、支援方法や安全管理の理解を深める機会を確保している。 これらの取り組みにより、職員の資質向上とスキルアップにつなげている。

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		事業所の支援方針に基づき支援プログラムを作成し、HUGシステムやステップサポート、事業所ホームページを通じて公表している。 内容は定期的に見直し、提供している支援と整合性が保たれるよう努めている。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		児童発達支援管理責任者を中心に、職員間で情報共有を行いながらアセスメントを適切に実施している。 子どもと保護者のニーズや課題を客観的に把握した上で、その内容を反映した放課後等デイサービス計画を作成している。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画の作成にあたっては、児童発達支援管理責任者を中心に、支援に関わる職員が日々の記録や打ち合わせを通じて共通理解を持ちながら検討している。 職員全体で子どもの最善の利益を考慮し、意見を反映しながら計画作成を進めている
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	○		放課後等デイサービス計画は職員間で共有されており、支援前後の打ち合わせや日々の記録を通じて内容を確認している。 計画に沿って支援を行い、子どもの状況に応じて必要な調整を行いながら支援の質を保つよう努めている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		HUGシステムを用いた標準化されたアセスメントに加え、日々の支援の中で行動観察を行い、子どもの適応行動の状況を多面的に把握している。 フォーマル・インフォーマル双方の情報を踏まえて支援内容の検討や計画作成に活かしている。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		アセスメントに基づき、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に整理した上で、 ガイドラインの「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」の視点を踏まえ、支援に必要な項目を適切に設定している。 そのうえで、子どもの状況や目標に応じた具体的な支援内容を計画に明確化し、日々の支援の中で実施・確認できるようにしている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		その日ごとの活動プログラムを担当制で立案しているが、職員全体で協力しながら取り組んでいる。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		日々の活動が固定化しないよう、さまざまな活動を取り入れられるよう工夫している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの特性や当日の状態を踏まえ、放課後等デイサービス計画を作成している。 集団活動が難しい児童については、計画に基づき個別活動へ切り替えるなど柔軟に対応し、安心して参加できる環境を確保している。 これらの対応は職員間で共有し、計画に沿った支援が継続して行われるようにしている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		その日の活動内容は職員間で共有し、支援内容や役割分担を確認したうえで活動を行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		HUGシステムで活動記録を残すとともに、気になった点や気づいた点を職員が追記し、誰でも振り返りができるようにしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		定期的にモニタリングを行い、児童の変化や支援状況を職員間で話し合いながら共有している。 必要に応じて個別支援計画を見直し、児童の状態に合った支援が継続できるよう調整している。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		HUGシステムを用いて日々の児童の様子を記録し、1日の流れや活動内容を全職員が共有できるようにしている。 記録をもとに支援の振り返りや改善点を確認し、児童の状態に応じた支援の質の向上につなげている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○		ガイドラインで示されている基本活動「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・連携」の4つの視点を踏まえ、子どもの状況に応じて必要な支援項目を設定し、支援を行っている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		子どもが活動を選べる場面を設け、選択肢の提示や声かけを通して自己決定を促す支援を行っている。

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者や現場スタッフが参加し、子どもの状況を踏まえた情報提供や意見交換を行っている。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		現状では関係機関との連携が十分に行えていないが、必要な情報共有や相談体制の構築に向けて、今後連携の強化に取り組んでいく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		年間計画や行事予定の確認、下校時刻の把握など必要な情報を適宜受け取っている。 学校お迎え時に児童の様子の聞き取りに努めているが、教職員と会う機会が少ないため、学校からの配布物等を通じて情報共有を行っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	現時点で該当児童はいないが、必要が生じた際には適切に対応していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	放課後等デイサービスから就労へ移行した児童はいるが、現状では支援内容の情報提供は行っていない。 今後、必要に応じて関係機関へ情報提供を行い、円滑な移行支援につなげていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。		○	現状では児童発達支援センターとの連携やスーパーバイズの機会は確保できていないが、必要に応じて助言や研修を受けられる体制づくりに今後取り組んでいく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		月に1度の子ども食堂訪問時に、近隣の地域の子ども達と一緒に過ごす機会があり、交流ができている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	地域自立支援協議会の取り組みや情報を確認し、地域の支援体制の中で適切に連携できるよう努めている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者とは送迎時やHUGシステムを通じて日々の様子を共有している。 また、必要に応じてLINEや電話等のツールも活用し、子どもの発達状況や課題について保護者と共通理解を持てるよう努めている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者とは送迎時やHUGシステムを通じて子どもの様子を共有し、家庭での関わり方や対応方法について助言を行っている。 必要に応じてLINEや電話での相談支援も行い、保護者が子どもへの理解を深められるよう支援している。

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に契約書および重要事項説明書を用いて、運営規程・支援内容・利用者負担等について丁寧に説明している。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		放課後等デイサービス計画の作成にあたっては、子どもや保護者の意思を尊重し、子どもの最善の利益を優先して検討している。 アセスメントや面談を通じて子どもや家族の意向を確認し、その内容を計画に反映している。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	○		放課後等デイサービス計画の作成時には、計画書を示しながら支援内容を丁寧に説明し、保護者が内容を十分に理解したうえで同意を得ている。 計画書は面談時に提示し、支援方針・目標・具体的な支援内容を確認したうえで、保護者の署名により同意を記録している。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者からの相談は随時受け付け、悩みの緩和につながるよう職員間で情報共有を行いながら、慎重に助言・支援を行っている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		保護者同士の交流機会を確保するため、発表会等の行事の際に保護者同士が話し合える時間を設けている。 また、今後は保護者会の開催を企画し、保護者同士の連携や情報交換ができる場を広げていく予定である。 きょうだい児についても、行事や交流活動への参加機会を設け、子ども同士が関わり合える場を提供している。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情窓口および苦情受付担当を設け、契約時に周知している。 苦情があった場合には職員間で情報共有を行い、迅速かつ適切な解決方法を検討し対応している。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		事業所通信の発行やホームページ・SNS等を活用し、活動内容・行事予定・連絡体制等の情報を子どもや保護者に向けて発信している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の取扱いについては、法令および運営規程に基づき適切に管理し、必要な範囲でのみ利用するよう徹底している。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		障害のある子どもや保護者との意思疎通が円滑に行えるよう、分かりやすい説明や視覚的な情報提示など、必要な配慮を行っている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	**近隣の公園での活動や、図書館の読み聞かせイベントへの参加、子ども食堂への月1回の訪問など、地域の施設や活動を通じて地域住民との自然な交流の機会を設けている。** **今後は、事業所前での活動紹介や地域センター等のイベントへの参加など、負担の少ない形から地域とのつながりをさらに広げていく予定である。**

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事故防止・緊急対応・防犯・感染症対応等のマニュアルを策定し、職員への周知と訓練を実施している。 また、保護者にはHUG内のお知らせを通じて公表している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害に備えて月1回の防災訓練の中で内容を取り入れ、実践している。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		服薬等の子どもの状況把握に努め、変更があった場合は保護者からの報告をもとに職員間で共有している。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーについては、保護者からの報告をもとにHUG内でアレルギー情報を確認し、必要な対応を行っている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を策定し、安全管理に必要な研修や訓練を実施することで、安全管理が整備された環境で支援を行っている。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。		○	子どもの安全確保に関する家族等への周知は現状では十分に行えていないため、今後迅速に対応していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットは発生の都度記録を残し、職員間で共有している。 再発防止に向けて話し合いの場を設け、改善策を検討している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止のため、ジョブメドレーアカデミー等を活用して研修機会を確保し、適切な対応ができるよう努めている。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束に関するマニュアルを策定し、職員間で共有・決定したうえで、放課後等デイサービス計画に必要な内容を記載し、保護者から事前に説明・同意を得ている。